



けいはんなサステイナブルスーパーシティ

～社会課題解決への挑戦が都市の持続力につながる世界トップの安寧な都市経営エコシステム～

再提案書（概要版）



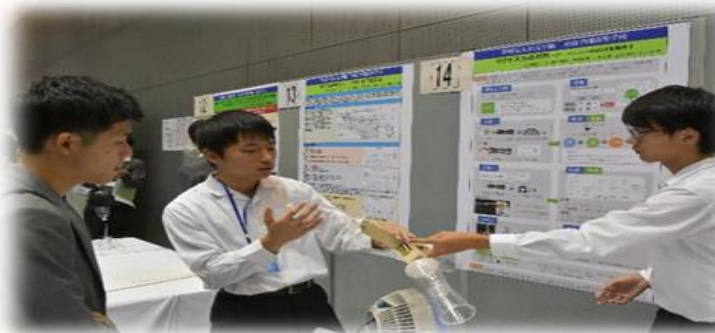
スーパーシティ構想で目指したい社会像

社会課題解決への挑戦が都市の持続力につながる 世界トップの安寧な都市経営エコシステム

・市町（行政）の都市マネジメント力の向上、官民連携による住民サービスのレベルアップ

AI時代にふさわしい教育 次代を担う人材育成

- AIには出来ない、人間ならではの能力向上と社会参加
- AIをツールとして活用した最適な学習環境の整備



まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル

都市
発展
必要
基盤

人生100年時代にふさわしく健康 で充実したスマートライフ

- ・さりげなく見守り、健康を押しつけない健康生活支援ITサービス
- ・住民個々の生活シーンにフィットしたアダプティブMaaS+α
- ・スマートライフ共通サービス（マイナンバーカード活用、デジタルツイン）



グリーンフィールド
(府保有地を含む約300haの開発)

ブラウンフィールド

イノベーションを創造する 国際研究ネットワーク

社会課題を解決する、
学研都市の知の集積



“グローバル連携”
国内外433機関と連携・協力関係
(けいはんなリサーチコンプレックス)



社会
課題
解決
実証

「京都ビッグデータ活用プラットフォーム」（産学官NPO等で構成）
立地企業、研究機関、地元市町の様々な交流

土台となる「関西文化学術研究都市（愛称：けいはんな学研都市）建設」の理念・基本方針

1. 文化・学術・研究の新たな展開の拠点づくり
- 2 我が国及び世界の文化・学術・研究の発展、並びに国民経済の発展への寄与
- 3 未来を拓く知の創造都市の形成 <技術×文化×住民交流による開発>

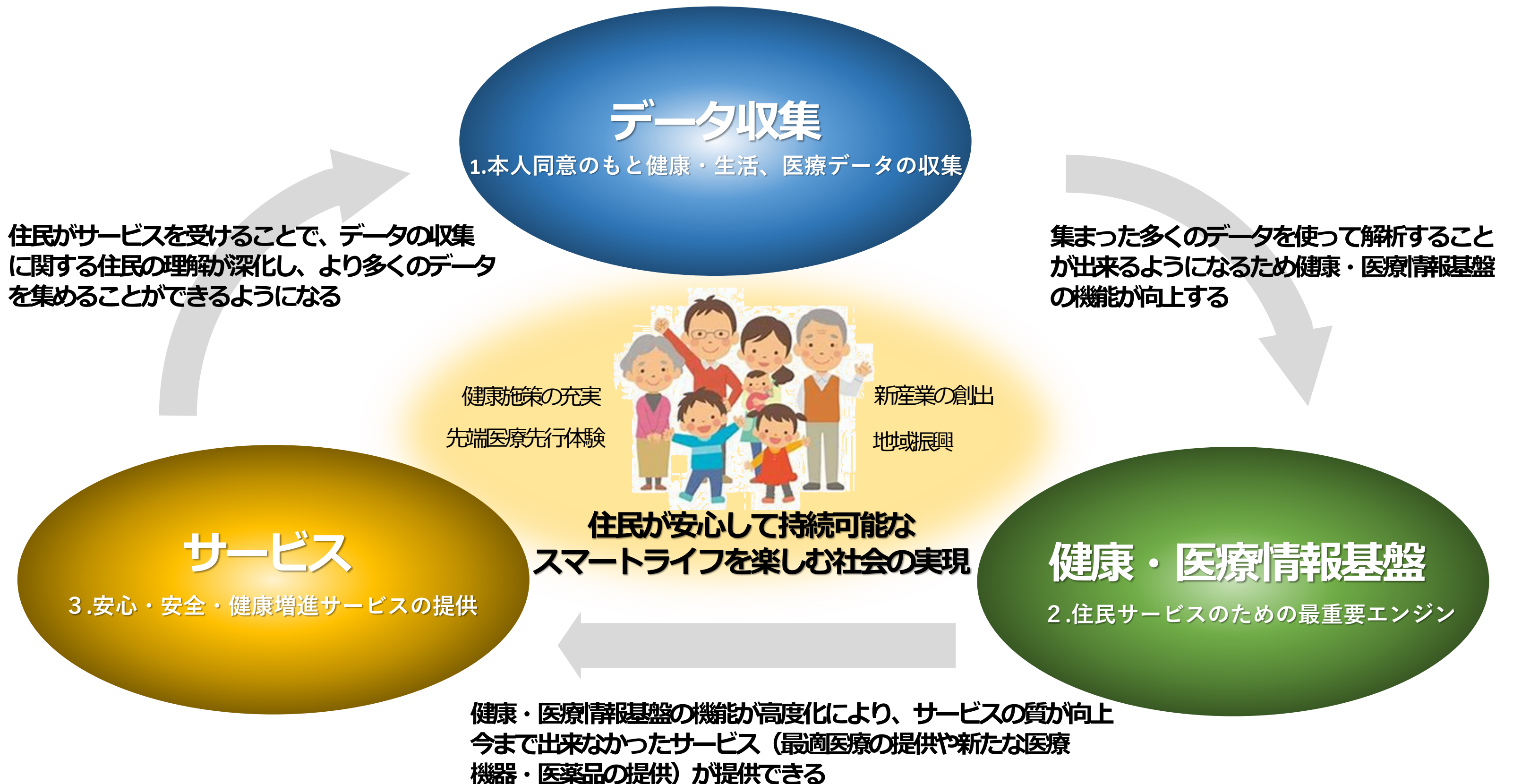
市民や研究者の知による生産や文化の創出を促進し、日々新しい価値を創造するとともに、先進的で自立的な「持続可能社会」での市民や研究者による住まい方や生き方を創造し発信していく都市の形成を目指す。

○都市経営エコシステムについて

- ・ けいはんな学研都市では、技術と文化、住民交流による開発を建設方針としており、これまで住民参加型の研究開発を進めてきたところであり、平成30年から産学官NPO等で構成される「京都ビッグデータ活用PF（120企業・団体）」で多種多様なデータを使って社会課題の解決や新規ビジネスの創出を行っている。けいはんな学研都市では、このような土台が既に出来ており、この延長線上にあるものがスーパーシティそのものであると考えている。
- ・ 先端技術を活用したサービスの提供により、住民一人ひとりが身体的・精神的・社会的に健康になると、都市が活性化して、そこに人や企業が集まり、さらに生み出されるサービスを住民が享受することで、より一層住民が元気になるというような好循環のサイクルを生み出し、世界トップの安寧な都市経営のエコシステムを構築を目指す。
- ・ 提案の中心となるスマートライフは、日本全体が抱える課題への挑戦であるが、スマートライフの実現プロセスにおいて、抽出される数々の社会課題を、これまで蓄積されてきた、けいはんな学研都市の知の集積や国内外433機関とのグローバル連携・協力により解決実証を行い、持続可能な課題解決サイクルを確立。これにより日本で解決できないものは海外研究機関との連携など、グローバル連携により課題の解決を加速させる。
- ・ また、中長期的な視点から、例えば都市内におけるスマートライフサービスをそこに住む住民が自ら開発していけるような将来を担う人材を育成し、持続可能な都市発展の基礎を形成する。
- ・ これらのけいはんな学研都市独自のリソースをエコシステムとして好循環させ、常に新しい技術導入とその技術開発を住民共創を基軸に、社会課題解決型のけいはんなサステナブルスーパーシティを実現する。

健康長寿エコシステムによるスマートライフ社会の実現

「データ収集」「健康・医療情報基盤」「サービス」のサイクルで構成する健康長寿エコシステムにより地域住民が安心して持続可能なスマートライフを楽しむ社会の実現を目指す。



スーパーシティ構想への取組にあたって

・京都府はこれまで国家戦略特区（H26.5指定）や国際戦略総合特区（H23.12指定）を活用して、iPS細胞から製造する試験用細胞等への血液使用の解禁など、健康・医療分野を中心とする規制改革に取り組んできた。

・また、規制改革だけでは研究開発は進まないという体験から、地域住民で構成する「Clubけいはんな」を組織（H28.11）し、地域住民の理解と協力のもと、研究開発の実証実験を進め、現在は約2,700名の参加登録を得て、例えば、乳幼児の睡眠と生活リズム解析による発達障害のリスク推定・予防システムの開発や、健康意識に関する調査、高品質野菜の開発、自動運転バスの公道実証などの実証実験を行っている。



・以上のような背景を踏まえ、今後、我々がけいはんな学研都市でスーパーシティ構想の推進に取り組むために、また、その手段である一つひとつの規制改革を実現するためには、地域住民に対し実施するサービスやこれに伴う課題等を説明し、理解を得た上で参加いただかなければならないと考えている。

・我々がスーパーシティ構想で目指す社会像の実現に向けて、一つひとつのサービスを地域住民が体験する中で、一歩ずつ地域住民の理解と安心を繋げていき、これまで築いてきた地域住民の皆様との信頼を深めながら、着実に一つひとつの規制改革にチャレンジし、未来社会の実現を目指したいと考えている。

・なお、個人情報の取扱いについては、個人情報保護法令等に基づいて適切に対応していく。